（別紙の２）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを持ち続ける事、今まで培ってきた力を発揮できる環境を作る事、ご利用者ひとりひとりに寄り添ったケアをする事を目標に、日々のケアにあたっている。 理念に対して正しい行動がとれているか、スタッフ会議で話し合っている。	法人の理念があり、職員で話し合い作成したホーム独自の理念もあり全職員で共有している。事業所のいたる所に（玄関・会議室・タイムレコーダー横）に掲げられ日常的に意識づけがされている。毎月行われる会議では管理者と職員で理念について話し合い日々のケアに当っている。理念にそぐわない言動があれば管理者が注意を喚起している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元スーパーへの買い物、散歩、畑仕事等、外に出る機会を設け、地域の方との交流の場となるよう積極的に取り組んでいる。 文化祭等、地域の行事に参加している。 保育園、中学校との交流の他、各種のボランティアを地元をの方に依頼し、ご利用者との交流の機会作りをしている。	地区の常会に加入し区費を納めている。昨年ホームで購入した除雪機を使い住民と一緒に雪かきをしている。今年度AED（自動体外式除細動器）を設置したことを地域住民にお知らせするため、常会に依頼し回覧板で発信した。近所や地域との交流、頂き物やおすそ分けもあり、感謝の気持ちで使わせていただいている。保育園児や中学生との交流もあり、中学生は福祉の授業の一環としてホームを訪れ、利用者と同じ時間を過ごしたという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、見学者を随時受け入れており、認知症について話し、実際にご利用者と接して頂く中で理解してもらえるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を写真のスライドにて行い、普段の生活を見てもらえるようにしている。 さらに多くの意見や助言が頂けるよう、今年度より民生委員の方にも出席して頂いている。	運営推進会議の規則が定められている。2ヶ月に1回、偶数月に行うため参加メンバーには事前にお便りを出し日程調整を行っている。会議内容は活動報告や意見交換をし、避難訓練も合わせて行われている。特に活動状況は写真保存したスライドを参加者で見ながらホームでの様子を知っていただいている。今年度は家族や民生委員の方にも参加を呼びかけ、民生委員代表者の参加があり協力者の輪が広がっている。	「サービスの質を高めるために」家族から忌憚のない意見をいただく場所として運営推進会議への参加を呼びかけていただきたい。敷居を低くし家族誰もが参加できる会議であることをアピールする工夫も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、入居者、待機者の状況を伝えている。 困難事例や課題は随時相談し、アドバイスを頂いている。	二村（麻績村・筑北村）の地域包括支援センターには入居者の状況を伝え、困難事例については随時相談を持ちかけ助言や指示を受けている。事業者連絡会が定期的に開催されており、職員が出席することで情報交換、情報収集ができている。介護認定の更新は家族の依頼を受け申請代行もしている。認定調査には家族の立会いを呼びかけ都合のつかない時は職員が立会い本人の状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々何気なく言ってしまう言葉も身体拘束にあたることがある事等をユニット会議で振り返り考える機会を持っている。 身体拘束とはどういうものか、職員の認識を深めるために勉強会を予定している。	ユニット会議で「身体拘束」について話し合い拘束のないケアに取り組んでいる。独自のアセスメントシートを活用し利用者の特徴や癖を分析し、その方に合わせたケアを行っている。ベットから布団に切り替えたり、鈴をつけ布団を反す時に鳴る鈴の音で駆けつけるなど、安全面を優先した拘束のないケアも工夫をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ユニット会議にて虐待について触れた。 日々のケアの中に虐待につながるものがないか注意を向けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する施設外の講演会等に参加する機会を設けている。 職員の目に付く場所に権利擁護に関する掲示をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、面談時に疑問点や不明な点はないか細目に伺っている。その場で対応できない事案に対しては、時間を頂き必ず対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。 入居時、苦情対応窓口として、市町村、国保連の説明をしている。 ご利用者、ご家族からの意見、要望は職員間で共有し、ケアに活かしている。	利用者の多くは自分の思いや意見を表出できている。表出の仕方は様々で（言語、表情、しぐさ）、利用者に合わせた対応が出来るよう全職員で話し合っている。利用者家族の3割は遠方で、季節行事に合わせて面会に訪れ親子水入らずの時間を過ごされいる。家族の面会時には最近の様子を職員からお伝えし、面会の時間が作れない家族にもホームでの様子を知っていただけるよう「あやめだより」を作成し毎月届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議を行い、事前に書面にて意見を提出してもらっている。その意見を会議の議題としている。 課題管理表を使用し、職員からの意見や提案を話しあう機会を設けている。 人事考課に伴い、半期に1回個人面談を実施している。	月に1回ユニット会議をおこなっている。議題は日々のケアや業務に関することで、事前に書面を提出し話し合っている。ユニット会議の欠席者は連絡ノートによる議事録を読み内容を把握するという。職員は個々に年間目標を持ち業務に励んでおり、半年に1回面談を受けながら希望や要望を伝えている。法人としても長く働いていただける職場づくりを心がけているという。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、必要に応じた個々との面談などを通し、スタッフの思いや、意見を聞く機会を持つように努力している。人事考課では目標設定し、達成状況に応じて昇給に反映させることで、スタッフのモチベーションアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内勉強会の開催と、外部研修への参加を促す中で、管理者、介護主任を中心に、ケアの質向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会、地域の事業所連絡会を通じて、他施設のスタッフとの交流の機会を作っている。 法人内の事業所同士、管理者会議を開催し、情報交換の場を設け、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り入居前にご本人に会う機会を持ち、希望すること、不安、思いを聴くように努めている。インテーク面談や入居前に把握している全ての情報を全職員に周知し、サービス導入時には安心して頂けるように、スムーズな関係作りができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を通して、ご家族の気持ちをしっかりと伺うようにしている。 困っている事、不安な事には対応策を提案し、話し合った上でケアにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスには、できる限り柔軟に対応するよう努めている。 福祉用具の導入、リハビリ等、関係各所に相談し、要望に沿える方法を検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の希望を最優先に考えるよう努めている。その人を知るために、カンファレンス時は生活歴を振り返る事も大事にしている。頼り、頼られる関係でいられる環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や日用品の補充等は、基本的にご家族にお願いしている。 ご家族来所時には、職員と話しをする場面も多い。 月1回のお便りで、近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブで、個々のなじみの場所に出掛けるようにしている。 ご利用者の友人、知人が来所された時には気兼ねなく過ごして頂けるよう、環境作りに気を付けている。	家族、親戚、昔からの知人や近所の方が面会に訪れることが多いという。携帯電話を所持している利用者もおり家族と連絡を取り合っている。面会者には面会票を記入していただきご家族が来訪された際には記入票を開示している。住んでいた家に戻ってみたい、服を取りに帰りたい等の希望に職員が付き添い出かけている。馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が自ら助け合い、コミュニケーションをとっている際は、見守るようにしている。その重要性を、ユニット会議にて職員間で確認している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から希望があれば、サービスが終了しても相談に応じるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握をするために、ご利用者と接する時間を最優先するよう職員間で確認している。思いの把握が困難な場合には、生活歴等を参考にしながらカンファレンスを行っている。	独自のアセスメントシートを使い、「思いや意向の把握」に努めている。多くの利用者は「自分一人のために申し訳ない」と自らの希望を訴えることは少ないというが、一人ひとりのニーズを把握し、遠慮せずに利用者の希望が叶えられる支援方法を全職員で考え取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や入居前の生活環境をご本人、ご家族から専用の様式を使用し伺っている。親族、友人が来所された時に伺ったエピソードも大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の思いと職員の気付きの両面から意向をくみ取り、アセスメントをしている。 カンファレンスを行い、その人らしい暮らしの実現を目指している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご家族の意向も伺うようにし、職員はカンファレンスにて気づきや意見を出し合い介護計画を作成している。 職員は、モニタリングにて計画作成担当者に経過を伝えている。	本人、家族の意向を盛り込んだ計画書を作成している。モニタリングは毎月担当者を変えて行い、短期3ヶ月、長期6ヶ月で評価し、目標の達成状況を確認している。ケースカンファレンスを開催し日々のケアの中で気づいたことを話し合い、介護計画の継続や新たな目標を抽出し、現状に即した介護計画を作成している。現在、家族から送られる手紙の中から希望等を抜粋し計画に反映させているが、今後は家族にも参加を呼び掛け、共同で計画書を作成して行きたいという。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、本人の言葉を交えて具体的に記すように努めている。 特記事項は、介護日誌にも記入し共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズに対して、その都度関係各所と話し合い、できる限り対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者それぞれの趣味、特技を活かせるよう、地域のボランティア団体を積極的に招いている。ご利用者の希望に合わせて、地域の理容院から散髪に来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回地域の医師の往診をお願いしている。職員はご利用者それぞれの様子や困っていることを代弁するようにしている。 専門医への受診が必要な場合にはご家族に付き添いを依頼したり、職員が同行している。	協力医が毎月1回往診し、利用者の診察、治療、精神面や健康面の管理を行っている。現在、殆どの利用者が協力医の往診を受けている。訪問看護師が毎週1回来訪し、医師とのパイプ役となり、24時間連絡可能な状態である。歯科は近々開業となり訪問歯科をホームで受けることが出来るという。専門医については基本的に家族付き添いでの受診をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護ステーションから看護師が来所している。職員はあらかじめ連絡票を利用し、看護師にご利用者の様子や気になる事を伝えて、アドバイス等を受けている。24時間、必要時には連絡し指示を受ける事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ1年間で入院された方はいないが、入院が必要になった場合には病院側に施設での暮らしの様子等を伝え、早期に退院できるように情報交換をし支援するように考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化、看取りを視野に入れた案内をしている。必要になった時には、ご本人、ご家族の意向を尊重し、主治医、訪問看護師とも共同しケアを行うことにしている。	重度化した場合の対応や終末期のあり方について利用開始時に説明している。現在まで重篤な状態になった方はおらず、今後は状態に応じて随時、本人や家族の意向を確認しながら主治医、訪問看護師との連携を密にし支援に取り組んでいくという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて救急救命講習を受講している。また、緊急時のマニュアルを全スタッフが把握するようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定の通報、避難誘導、消火訓練を年2回行っている。 地域に方にも協力を依頼し、訓練に参加して頂いた。 災害の備えて物品を用意している。	消防署の協力を得ながら年2回の訓練を行っている。昼・夜想定の通報訓練、避難・誘導訓練、消火訓練を行い、地域住民の参加もあり協力体制を築いている。防災設備としてスプリンクラー、自動火災報知機などが設置され、防炎カーテンも使用している。非常災害時に備え1週間分の食料品や物品を準備している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議にて定期的に話し合いをしている。 常に相手の立場に立った行動がとれるように 確認している。	利用者は苗字に「さん」をつけて呼ばれている。利用者の立場に立ったケアが出来るよう話し合いの場を持ち進めている。入浴介助や排泄介助につては同性で出来るよう職員を入れ替え、さりげなくプライバシーが守られるよう配慮している。ユニット会議でプライバシー確保について全職員で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由な行動を妨げるような声かけや介助をしないように、職員間で話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合、スケジュールに当てはめることのないよう注意し、会議で話し合うこともある。ご利用者の動きに職員側が合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする方にはそのお手伝いしている。髪、爪が伸びていないか、服装の汚れがないか気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや一連の作業をご利用者と職員が一緒に行うように心がけている。食事やお茶の時間の関わりも大切にしている。 食後の片付けも同様に、ご利用者、職員が協力して行っている。	ホームで収穫された野菜や頂き物、冷蔵庫にある食材を利用しその日のメニューを決めている。食事作りに利用者の力を借りながら職員と一緒に準備から片付けを行っている。献立は利用者の好みを取り入れながら食事が楽しみとなるよう配慮している。殆どの利用者は常食であるが、献立や食材によっては一口大に切り分けたり、トロミをつける方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間に全員が同じように食事をすると考えずに、体調や気分によって食事の時間をずらしたり、または食事以外で補ったりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、介助を行っている。食前には感染予防もかね、うがいも実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人その人に合わせた排泄方法の検討をしている。オムツを使用している方でも、少しずつトイレでの排泄に移行していけるように取り組んでいる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っている。日中オムツを使用している利用者もトイレ誘導をし、残存機能を活かす取り組みを行っている。夜間のトイレ誘導は定時誘導ではなく自然覚醒によるタイミングで行っている。職員は「排泄で失敗して汚しても洗濯をすればいい」と寛大な気持ちで接している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時には牛乳を提供、食後にトイレの促し、運動の機会を持つなど、できる限り自然に排便があるように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があった時に入浴ができるよう、入浴日、時間帯はその日に決めるようにしている。 週2回、希望があればそれ以上に入浴ができるようにしている。	普通浴槽と特殊浴槽があり状態に応じて使い分けをしている。個々の希望やタイミングに合わせ随時入浴が出来るよう「お風呂の日や時間」はその日に決めている。入浴を拒む利用者には言葉掛けや誘い方を工夫しスムーズな入浴が出来るよう配慮している。安全の確保から全員が見守りと一部介助による入浴を実施している。季節のお風呂（菖蒲湯、柚子湯）や入浴剤を使い入浴を楽しむ支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠る事や時間帯だけに注目せず、眠れない時は職員と話しをして過ごす等、ご本人の欲している事を見つけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容説明書をまとめ、職員がいつでも確認できるようにしている。 配薬ケースへの表示、服薬確認チェック表を利用し、誤薬の防止に努めている。 服薬内容の変更があった際には特に注意して様子を観察し、記録に残し医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や興味を把握し、カンファレンスにて共有している。全員が同じ作業をするのではなく、それぞれの好きな事、得意な事を活かし、取り組めるような環境作りをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者からの希望があった時はもちろん、言葉での希望がない時も仕草等で感じられる際には随時戸外に出掛けるようにしている。 個人的な外出希望も支援している。	天気の良い日にはホーム周辺の散歩に出掛け、近所の人々との交流を楽しんでいる。近くに農協のスーパーがあり買い物に出掛けることもある。ホーム近くには長野道麻績ICがあり高速を利用し名所旧跡などに出掛けている。今年度は千曲市にある八幡神社に出掛け菊花展を見学してきた。利用者は回転寿司が好きで、時々車で外食を楽しんでいるという。役場や公民館で開催されるコーラスのコンサートや文化祭にも出掛け、地域の方々とのふれ合いを深めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、お金の扱いについてご本人、ご家族と相談している。ご自分でお金を持ち買い物をする方には、買い物を楽しんで頂けるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけるお手伝いをしている。贈り物が届いた際などには、送り主に電話をするかご本人に聞いた上で、希望があればお手伝いをしている。 年賀状をすべてのご利用者が家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	賑やかな場所を好まない方もおり、カラオケをする際にはユニット間の扉を閉めたり、音量に気を付けている。 冬は、暖房で室温が上がりすぎないように、こまめに換気をしている。	ホーム全体は白とベージュを基調とした温か味のある色調で統一されている。共有スペースは開放的で広々としたリビングをパーテーションで仕切り使い分けをしている。中心にはキッチンと食堂が設置され多目的に利用されており、常に利用者の集まる場所となっている。蓄熱式の暖房機により室内は快適な温度に保たれ安全面にも配慮がされている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや玄関ホールにベンチやソファーを設置している。気の合ったご利用者同士で過ごされる事も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、なじみの家具等を持ち込んで頂くようお願いしている。 自宅の環境に近づくように努めている。	居室にはクローゼット、ベットが備えつけられいる。長年使い慣れた家具や思い出の品々が飾られ、居室は自宅の雰囲気と大差のない空間となっており居心地良く暮らせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具導入の際には、個々の状態に合わせ、無理なく使える物を検討している。 トイレの表示、希望者には居室ドアに名前を掲示したり、目印をつけている。		